

作者:不詳

成立:江戸初期



## 解題

## Keyword

- 小田原北条氏
- 軍記物
- 「相豆記」
- 北条綱成
- 北条氏繁

伊豆・相模を本拠とした小田原北条氏五代の興亡を編年体で記した軍記物。『相豆記』ともいう。漢文体で書かれ事蹟を簡潔に述べる。記述に極端な精粗があり年代や人名に錯誤が指摘されている。北条氏の関係者により江戸時代の初期に書かれたものと推定されている。

## ■ 成立経緯

本書巻末部分には天正18年(1590)の北条氏滅亡の慨嘆が実感をともなって記されており、成立は江戸初期のごく早い時期と推定されている。徳川家康が征夷大將軍に任命された慶長8年(1603)か、元和2年(1616)の家康死去までには成ったものと考えられる。本書は短い期間に鮮明な記憶のみで一気呵成に書かれた印象が濃い。

## ■ 作者

作者の名は伝わっていないが、本書作中に北条綱成の所業を称揚することがたびたびあり、また徳川家康を「源君御諱(げんくんおんいみな)」と書いていることから、綱成の子孫に関係する人物、綱成孫の氏勝周辺の人物の手になるものではないかと推測されている。北条綱成は通説では今川氏旧臣福島正成の子とする。北条氏二代氏綱に見出され河越城合戦の守将として名高い武将。その孫氏勝は伊豆山中城陥落後、拠城の玉繩城を守るが徳川家康に降伏し、下総岩富で1万石を宛行(あてが)われ江戸幕府の大名となった人物である。

## ■ 内容

鎌倉幕府14代執権北条高時の次男時行は、建武2年

(1335)の中先代の乱などで足利尊氏軍に敗れた後、伊勢に土着したという。本書では、この時行の五代目を北条早雲(伊勢宗瑞)に擬し、鎌倉北条氏や伊勢氏姓との関係を合理させている。

戦記として河越城攻防戦、上州平井城攻略戦、長尾輝虎(上杉謙信)・武田信玄の小田原来襲、国府台・三増の両合戦などを比較的詳しく記述する。特に北条綱成、氏繁父子の活躍、名将ぶりを特筆しているのが目立つ。

記された事績の年代が歴史的事実と相違している部分も指摘されている。例えば河越夜戦を天文8年(事実と同15年)としていることや、松山城陥落を永禄5年(同6年)と記述していることなどである。

本書は他の北条氏関係の軍記物と比較して非常に短いものである。二代氏綱に関する記述はほとんどなく、天正10年以降の事績は唐突に省略され、北条氏没落の嘆きのみが強調される。小田原北条氏に深く関係した人物により、ほぼ同時代に書かれたものであることに価値があり、北条氏研究の参考資料として用いられている。

## ■ 諸本

群書類従本合戦部に収められたものの奥書には「右豆相記以二本校合了」とある。本書は内閣文庫の古写本をはじめ、静嘉堂文庫などに写本が所蔵されている。



## 史料本文を読む

### <翻刻本>

- ◆ 「豆相記」(『群書類従』385 34丁 [K24/56]) ※和装本
- ◆ 「豆相記」(『群書類従』第21輯 合戦部 卷385 [K08/17/1-21])
- ◆ 「豆相記」(『新編埼玉県史 資料編8 中世4 記録2』埼玉県 1986 [213.4/53/8-1]) ※底本：群書類従本